

公開研究会

「利用者本位の建築デザイン」とはなにか

－不可視化された利用者を理解する－

建築設計において設計者がまず把握しなければならないことが、その建築の利用者であることは、異論のある人はいないでしょう。しかし、建築計画学における「利用者」の姿とは、必ずしも現実の「利用者」像を反映してきたわけではありませんでした。たとえば、認知症高齢者のための環境が真剣に考えられたのは、1980年代以降のことでした。

昨今は高齢化・少子化の進行、障害者差別解消法の施行など、社会の多様性がさらに広がる中で、建築計画学には、さらなる「利用者」像の拡大が求められています。しかし、細分化され、発見されにくい利用者像を把握することは、簡単なことではありません。

本研究会では、そのような発見されにくい人々を「不可視化された利用者」と名づけ、どのような人々が「不可視化」されているのか、またそのような人々がどのようなニーズを持っているのか、具体的な事例をもとに解説します。これを通じ、いままさに求められている「利用者本位の建築デザイン」を確認し、それらを今後どのように更新・拡大してゆくのか、参加者の皆様とともに考えます。

主催：建築計画委員会 計画基礎運営委員会 ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会

日時：2017年3月18日（土）14：00～17：00

会場：建築会館会議室（港区芝 5-26-20）

<プログラム（予定）>

- 1) 主旨説明 : 松田 雄二（主査・東京大学）
- 2) 存在が隠れた利用者とは誰か －LGBT、ひきこもり、オストメイトなどから考える
: 田中 賢（幹事・日本大学）
- 3) 非日常的環境における日常生活者 －患者とその家族から考える
: 石橋 達勇（幹事・北海学園大学）
- 4) 自分の言葉で語ることが難しい利用者をどのように理解すべきか －脳性まひ者、知的障害者、重複障害者から考える : 松田 雄二
- 5) ディスカッション
- 6) まとめ : 西出 和彦（東京大学）

司会：原 利明（鹿島建設）

参加費：会員 1,000 円、会員外 1,500 円、学生 500 円（資料代含む／当日会場払い）

定員：50 名（申込み先着順）

申込方法：催し物名称・氏名・勤務先・所属を明記し、下記までお申し込みください。

松田 雄二（東京大学） E-mail: matsuda@arch1.t.u-tokyo.ac.jp